



平成30年度 仙北市立白岩小学校学校だより ～学校・家庭・地域をつなぐかけ橋として～

三つ柏

— MITSU KASHIWA NO.26 —

平成30年11月19日発行

「外国語活動」を大学生と一緒に！ —国際教養大学の学生，白岩小訪問—



11月16日(金)，国際教養大学の2年S.さん(神奈川県出身)，N.さん(沖縄県出身)と，地区運動会にも来てくれた1年M.さん(千葉県出身)が本校を訪れ，5，6年生の外国語活動に参加してれました。5年生の授業では，自分の考えたメニューを英語で紹介する活動，6年生では，起きたり学校に行ったりする時間を英語で質問する活動を行いました。3人の堂々と英語で自己紹介の様子や自分たちから積極的に子どもたちに関わって会話をする様子は，まさに外国語活動で目指す姿でした。「自分もこうなりたい」と思った子どもも多かったのではないのでしょうか。これからも，国際教養大学の学生や留学生との交流などとおして，子どもたちにコミュニケーション力を育てていきたいと思っています。(2年生の二人は，今年の冬からそれぞれイタリア，ドイツに留学するそうです。帰国後も留学先の様子などを教えに来てくれると嬉しいですね)



学校生活ア・ラ・カルト

1年生・国語科暗唱活動 じょうずにできるかな？



11月8日(木)，1年生の子どもたちが校長室に暗唱を聞いてもらいに来ました。

10月4日から始まったこの活動も，今回が4回目です。最初は自信がなさそうに引っかけながら暗唱していた子どもたちも，今回は，みんな自信をもってスラスラと暗唱できました。3月までに10の文章を暗唱できるようになるのが目標です。だんだん難しくなりますが，七人力を合わせて頑張れ！校長先生も「こうちょうせんせいにあんしょうをきいてもらいにきました」という声が，職員室で響くのをとても楽しみにしています。



6年生・薬物乱用防止教室 「ありがとう」も薬の一種？

11月13日(水)，学校薬剤師のS.先生をお迎えし，6年生を対象とした薬物乱用防止教室を行いました。先生からは，お酒，たばこ，違法ドラッグは依存性が強く，特に違法ドラッグは，一度服用すると一生依存する気持ちはなくなることや，知らずに服用しても罪になることなどを教わりました。

薬と上手に付き合う方法も教えてもらいました。薬とは，何かしら身体や気持ちに影響を与えるものであり，「ありがとう」という言葉も相手を嬉しい気持ちにするという意味では，一種の薬だという話が印象的でした。相手を嬉しい気持ちにする「ありがとう」という薬は大切にしたいですね。



今度は国語の問題に挑戦してみませんか

3 山下さんは、日本で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士について書かれた伝記「湯川秀樹を読む」最も心がひかれた一文とその一文を選んだ理由をまとめることにしました。次は、山下さんの「ノートの一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



ノートの一部

湯川秀樹（一九〇七年～一九八一年）

物理学者。全てものは非常に小さい「粒子」からできており、そのつぶが回る新しい考えを導き出した。その後、日本人で初めてノーベル賞を受賞し、戦後の日本に希望をもたらした。

心に残った行動や成しとげたこと	思ったこと
おさないころの湯川博士は、一人で黙々と積み木に熱中していた。長い時間、積み木を置いたり組み合わせたりして、家や門を作っていた。	物事への熱中がすごい。わたしもズルズルに熱中することがあるけれど、そんなに長くはできない。
小学校に入る前から高校のはじめのころまで書道で習っていた。最初は兄弟姉妹の金貨が習っていたが、兄たちはいつの間にかやめてしまった。だが、湯川博士は習い続け、様々な書き方を身につけた。	続けることは大変だけれど大切だ。わたしは水泳を習っていたが、たいてい何日も休んだ。湯川博士は習い続け、様々な書き方を身につけた。

<p>① 最も心がひかれた一文とその理由</p> <p>家燕から外国への留学をすすめられた湯川博士は、自分の仕事を一つ仕上げた上でなければ、外国へ出かけたくなかった。自分の力で、やれるところまでやってみた。何度失敗してもよいと考えた。</p>	<p>わたしはむずかしい問題は、すぐにあきらめてしまう。湯川博士はなぜそこまで夢中になれるのだろう。</p>
<p>② 湯川博士も苦しいと思うときがあったというところを記述しなさい。</p> <p>一度始めたことはなかなかやめない、という湯川博士のことをよく表している。</p>	

「山下さんは、ノートの一部」について、もくろく知りたかったことがあったので、湯川博士が自分のことを書いた本である「自伝「旅人」の一部」をさらに読みました。山下さんはどのようなことが知りたくて次の文章を読みましたか。その説明として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【自伝「旅人」の一部】

（湯川秀樹「旅人 ある物理学者の回想」による）

- 1 湯川博士が自分自身をどのように思っていたのか。
- 2 湯川博士がどのような書き方を身につけたのか。
- 3 湯川博士がどのような研究に取り組んでいたのか。
- 4 湯川博士の兄弟姉妹はどのような様子だったのか。

（湯川秀樹「旅人 ある物理学者の回想」による）

二 山下さんは、最も心がひかれた文として、②の中から「自分の力で、やれるところまでやってみた。」を選びました。そして、「ノートの一部」を参考に、もう一度伝記「湯川秀樹」を読み直します。次の「伝記「湯川秀樹」の一部」を読み、③の□に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【伝記「湯川秀樹」の一部】

秀樹は、大学を卒業した後も引き続き大学に残り研究を続けたが、なかなか成果を出すことができなかった。そのころ世界では、秀樹が取り組んでいる研究の分野で新発見が相次いでいた。研究の見しづかぬ秀樹にとって、苦しい日々が続いていた。昼夜を問わず、秀樹の頭の中には研究のことがあった。ふとんに入ってから研究のことを考え、次々に浮かぶアイデアをわすれないために、まくらもとには「ノートを置くようにした。そして、アイデアを思い浮かべると電灯をつけてノートに書きこむようにし、ねばり強く考え続けた。秀樹は、だれも知らない事実を導き出すようにしていたのである。

- 〈条件〉
- ① なぜ「自分の力で、やれるところまでやってみた。」という一文がひかれたのかを考えて書くこと。
 - ② 「伝記「湯川秀樹」の一部」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - ③ 書き出しの言葉に続けて、六十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にかかわらず。

全国学力・学習状況調査を踏まえ

前号の算数の問題に引き続き、4月に行われた全国学力・学習状況調査の国語Bの問題です。この問題の「一」は、残念ながら正答率が県平均に比べて低かった問題です。「4」と解答してしまった子が多くいました（正答は「1」）。

逆に「二」の問題は県平均よりも30ポイント近く正答率が高かった問題です。無回答率が県では約5%、全国では12%もありましたが、本校は0%でした。これが、正答率が高かった要因の一つだと思います。ここでも、本校の子どもたちは、「粘り強く」最後まであきらめずにしっかりと問題に向かっていくことができていたことが分かります。前号の算数と同様、問題文が長いですが、それをきちんと読み取って問題を解くには、普段の読書も大切です。子どもたちには、興味のある本をどんどん読んでほしいと思っています。

③ 最も心がひかれた一文とその理由

「自分の力で、やれるところまでやってみた。」

この言葉は、自分の仕事を一つ仕上げた上でなければ、外国へ出かけたくなかった。留学の話も断った湯川博士の言葉である。湯川博士はおさないころから、積み木に熱中したり、書道にしようとしていた。一度始めたことを最後までやりとげようとしていた。また、

これらのことから「自分の力で、やれるところまでやってみた。」という一文は、ねばり強く物事に取り組む湯川博士のことをよく表していると思った。

わたしは、勉強やスポーツに取り組んでいるとき、どちらか一方をあきらめてしまうことがある。これからは湯川博士のように、ねばり強く最後までやりとげるようにしていきたい。